

IWP-3090

ポ ケ ッ ト 通 信 機

取 扱 説 明 書

S-TML 000311

目 次

1. 概 要	1
2. 接続方法	2
2.1 外線接続	2
2.2 線路に対する条件	2
2.3 『外線接続コード』	4
2.4 『延長コード』	4
3. 送受話器（アセンブリ）	5
3.1 送受話器の種類	5
3.2 送受話器の接続	5
4. 使 い 方	6
4.1 電池の挿入	6
4.2 操作方法	6
5. そ の 他	8
6. 乾電池および蓄電池使用上の注意事項	9

1. 概 要

本機は2線式線路を使用する携帯形有線通信機です。1回線の線路で1対1の通話から多数の使用者間での会議通話が可能なように考慮されています。送受話器は、使用条件に合わせて選ぶことができます。またブザーコードを使用して、通話をしながら通線のブザーチェックができます。

本機の電源は単3形乾電池かニッカド蓄電池が使用できます。ニッカド蓄電池は適合した充電器（市販品）で充電し、反復使用ができますので、使用頻度が高い場合に便利です。

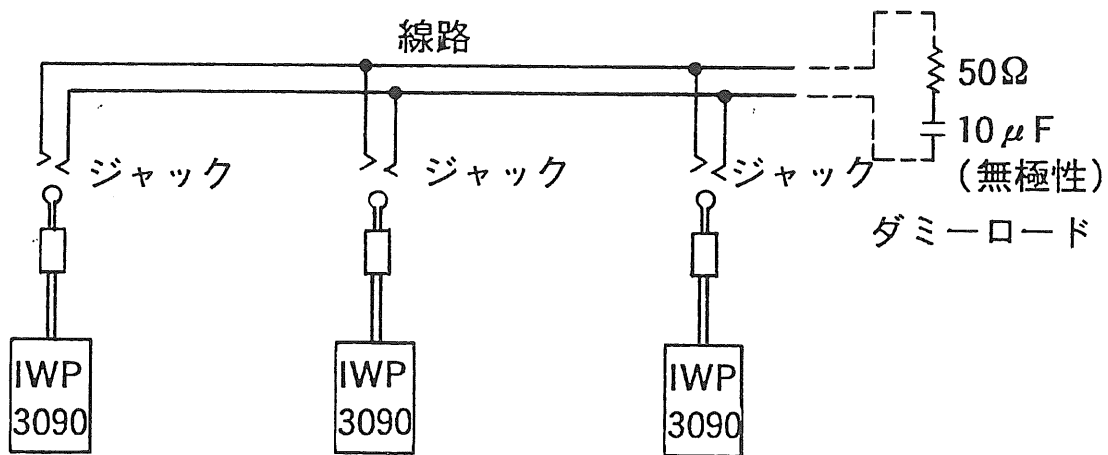
2. 接続方法

2.1 外線接続

本機と線路は添付の『本体コード』および別売りの『外線接続コード』を使用し、下図のように接続します。線路は2線必要としますが、極性はありません。

2.2 線路に対する条件

- 1) 本機は電圧の印加されていない線に接続して、呼び出し・通話およびブザーチェックが行えます。事前にテスターなどで電圧が印加されていない事を確認してからご使用ください。(万一電圧が印加されている回線に接続した場合は、本体内部の抵抗ヒューズが切れることがあります。)
- 2) 本機は信号呼び出しの際、直流電圧を線路に送出しますので、電圧が印加されていない、直流に対しループがない線路で使用してください。
- 3) 雑音による通信障害を避けるために、動力線などからの誘導の少ない線路を使用してください。
- 4) 線路抵抗は、1対1通話の場合600Ω位まで、20台程度を等間隔で配置する場合は、1スパン当たり10Ω位までとしてください。
- 5) 接続する台数が不定の場合は、線路にダミーロードを接続しておくこと、台数の変化によるインピーダンスの変動が抑制されて、通話音量と側音の変動が小さくなり、良好な通話品質を保つことができます。(この場合側音バランスの調整をダミーロード接続状態に合わせて行なっておきます。)



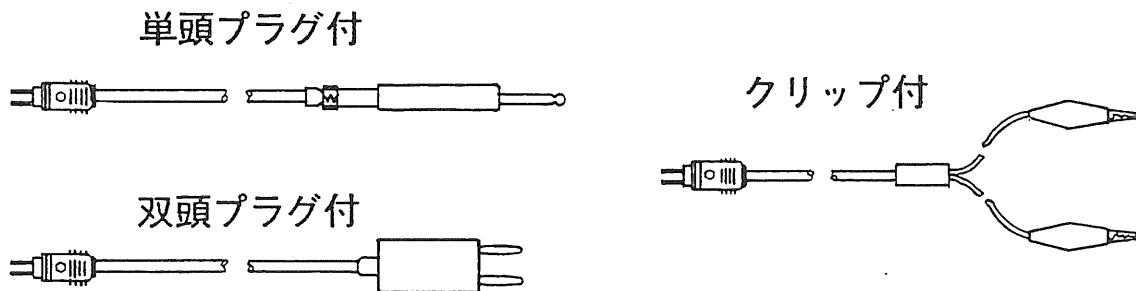
- 6) 『ブザーコード』を使用する事により、通話をしながら心線対照のブザーチェックができます。この時は1対向にて行うこととし、固定側はジャックAに、探り側はジャックBに『ブザーコード』のプラグを差し込みます。

(若し、ブザー音の応答が呼出音と同じように遅延のある場合は、回線に接続している『本体コード』の極性を変えれば応答は速くなります。)

尚、電圧の印加されている線は心線対照できません。

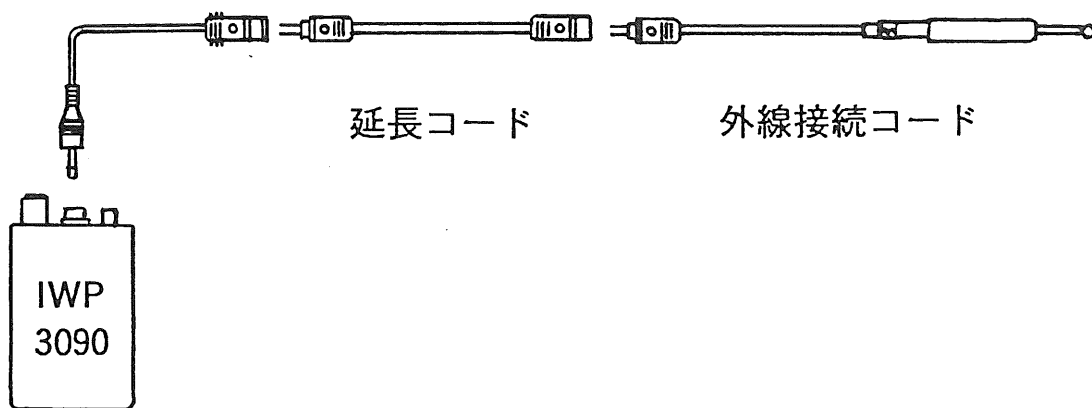
2.3 『外線接続コード』（別売品）

『外線接続コード』は3種類あります。（単頭プラグ付き，双頭プラグ，クリップ付き 用途によりお選びください。）『本体コード』のコネクタに接続して使用します。



2.4 『延長コード』（別売品）

『外線接続コード』の長さは2mですが，長さが不足する場合は『延長コード』（5m）を『本体コード』と『外線接続コード』との間に接続して使用してください。



3. 送受話器（アセンブリ）

3.1 送受話器の種類

使用できる送受話器は4種類有り、目的に合わせて使い分けができます。

- 1) ヘルメット形アセンブリー（AS-510）
……………比較的騒音の少ないところで使用
- 2) ヘルメット形アセンブリー（AS-510D）
……………比較的騒音の高いところで使用
- 3) ブローチ形アセンブリー（AS-521）
……………比較的騒音の少ないところで使用
- 4) ブローチ形アセンブリー（AS-511）
……………比較的騒音の少ないところで使用

AS-510, AS-510Dはレシーバ(受話器)として、イヤホンPR-17-A, スピーカSP-90, MP-25-16, HES-810が選べます。

3.2 送受話器の接続

アセンブリプラグの先端の突起をアセンブリジャックの切り込みに合わせて真っ直ぐに差し込み、外側のリングを右方向に回して締めます。外すときは逆に回します。

4. 使い方

4.1 電池の挿入

電池ケースに単3乾電池を2本極性を合わせてセットします。単3形ニッカド蓄電池2本でも使用できます。

4.2 操作方法

1) 電源スイッチ兼受話音量

POW OFFで電源断, 右に回すと電源ONになります。

RCV VOLで受話音量が調整できます。

2) TRANSM (送話) スイッチ

ONにすると送話音声は線路に送出されます。

3) CALL スイッチ

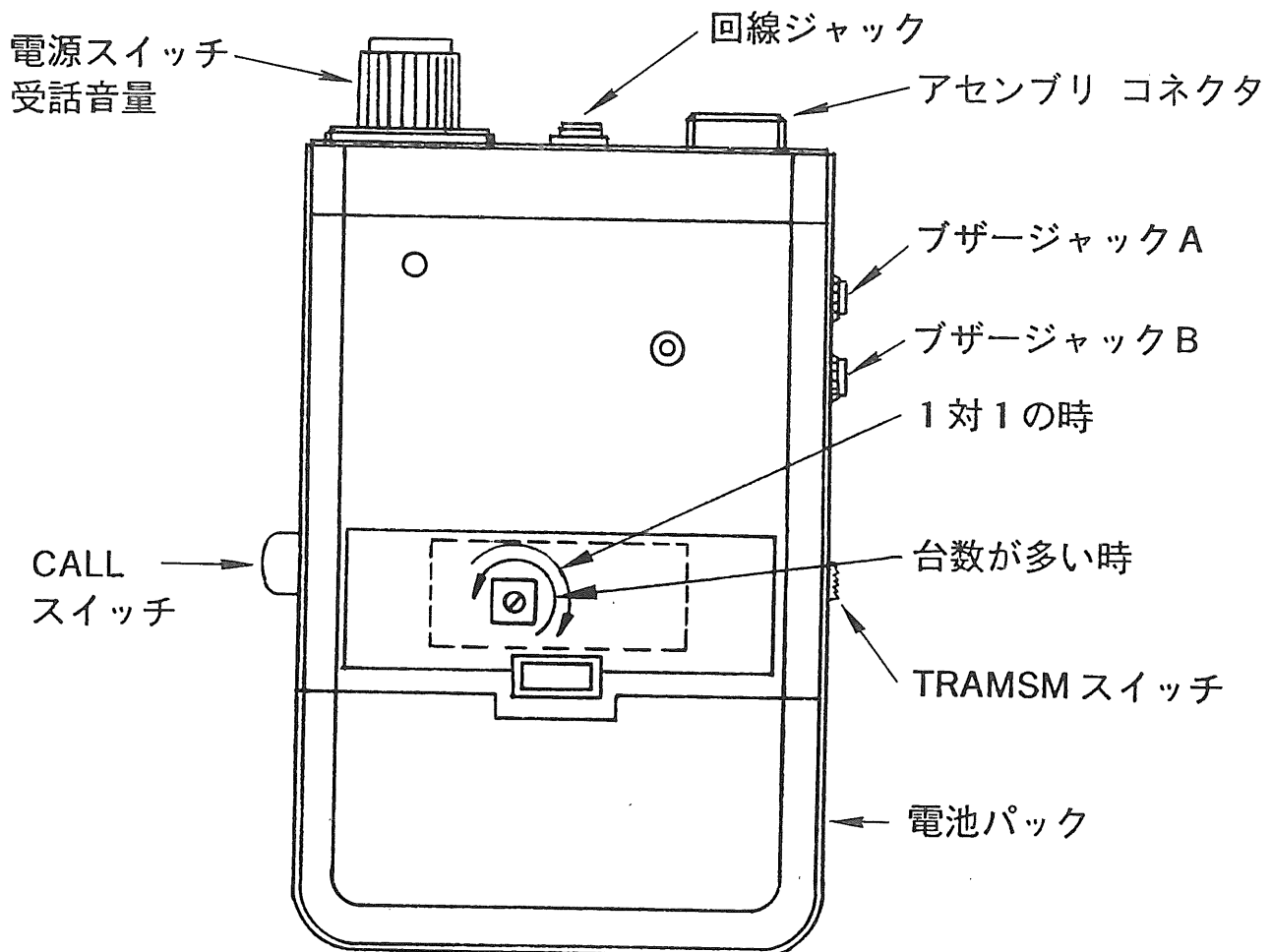
押している間信号音が出ます。

4) 側音バランスの調整

本機では自分の音声が入る受話器に戻ってきて（側音）相手の音声が聞き取りにくくなることを防止するため、側音平衡回路を使用していますが、これは接続される台数によりインピーダンスが異なると効果が十分発揮されにくくなります。

このようなときは、バランスボリューム（LINE BAL）にて使用状態に合わせて再調整します。調整は、使用状態でTRANSMスイッチをONにして、自分の側音が最小になるように、LINE BALボリュームをまわし調整できます。

ボリュームは、1対1の場合時計方向まわしきり、接続される台数が増加するに従って反時計方向にまわします。



5. その他

5.1 騒音の多いところで多数台使用する場合、送話する必要のないところでは、受話専用にしておく (TRANSM スイッチ OFF) ことにより、不要な周囲騒音がノイズとして通話に入るのをカットすることができます。

5.2 線路に接続せずに受話音量を上げすぎると、ハウリングを起こすことがあります。(特に側音バランスが多数台接続用に調整されている場合)

この場合受話音量を絞るか、線路に接続してから TRANSM スイッチを ON にする、線路から外すときは OFF にしてから外すようにしてください。

5.3 電池の電圧チェック

電池の容量が低下すると、アセンブリで自動的にブザーが鳴りますので、電池を交換してください。

6. 乾電池および蓄電池使用上の注意事項

乾電池や蓄電池は使いかたを間違えますと、「破裂」したり、「液もれ」するなどして故障や事故の原因になりますので次の点にご注意下さい。

- ・乾電池を交換するには、2本とも新しい同じ種類のものをお使い下さい。使いかけの乾電池や、種類の異なる乾電池の混用はしないでください。
- ・乾電池と蓄電池は混用しないでください。
- ・種類の異なる蓄電池の混用はしないでください。
- ・乾電池や蓄電池を入れるとき、1本でも極性を間違えますと「液漏れ」の原因になります。
- ・乾電池は充電しないでください。
- ・乾電池や蓄電池は加熱したり、分解したり、火の中に投入したりしないでください。
- ・蓄電池は専用の充電器で充電してください。
- ・長期に渡り使用しないときは、乾電池や蓄電池は電池ケースから取り外してください。

創造と豊かな対話のために

IWATSU 岩崎通信機株式会社

情報通信営業部 〒168 東京都杉並区久我山1-7-41 ☎ (03)5370-5470